き、さくらさう、ゆきわりさう、すみれ、はす、かはほね、ひつじぐさ、ほくろ、かんらん、しらん、つるぼ、ねぎ等ノ花莖之ニ屬ス、原語ハ Scape ナリ

○おにく並ニきむらたけノ意義ハ如何

牧野富太郎

はまうつぼ科ノ一寄生植物ニおにくト呼ブモノガアル我邦デハ駿州ノ富士山ヲ始メトシテ野州ノ日光山、信州ノ御岳(オンタケ)駒岳八ヶ岳等ノ高山ニ生ジテみやまはんのきノ根ニ寄生スル又北海道ニモ産スル富士山デハ是レガ藥ニナルト唱ヘテ登山者ニ賣ッテ居ル本品ハ直立シテ數寸乃至一尺許ノ高サガアル七月下旬頃ヨリ八月ニカケテ唇形花(然シ下唇ガ甚ダ不完全デアル)ヲ開キソレガ多肉ナル花軸ノ周圍ヘ密著シテ數寸ノ花穗ヲナシテ居ル花色ハ暗紅紫デ花中ニ二長二短ノ四雄蘂ト一雌蘂トガアル又花ノ下ニ黄色ノ苞ガアッテ花ヲ擁シテ居ル莖即チ葶ハ粗大多肉デ黄色デ小鱗片ガ一面ニ散布シテ居ル地下莖ハ肥厚シテ密デ剛キ質ヲナシ生時ハ黄色ヲ呈シテ居リ此部ヲ以テ寄主ノ根ノ末端ニ寄生シソレヨリ養分ヲ受ケ得テ生活シテ居ル藥ニハ主ニ此部ヲ用ウルガ然シ學問的ニ其成分等ガ調ベ上ゲラレテアルノデハナイカラ藥ニシテ果シテ功ガアルカ無イカハ能クハ分ラヌガ今日ノ所デハタヾ迷信的ニ之ヲ用ヰテ居ルラシイ然シ妙ナコトニハ猫ガ大變ニ之ヲ好イテ食フコトガ彼ノまたゝびト同ジ様デアルコンナコトカラ考ヘルト何カ變ッタ成分ガアルカモ知レナイ此植物ハ今日デハ其學名ヲ Boschniakia glabra C. A. Mey. ト稱スルガ舊クハ之レヲはまうつぼト同屬ト見テ Orobanche glabra Hook. ト云ッタ而シテ啻ニ我日本ニ生ズルバカリデナク又亞細亞大陸ノ北部西伯利亞ニモ北亞米利加ニモ産スル

おにくハ御肉ノ義デアル此物富士ノ靈山ニ産シテ藥ニナルト云フトコロカラ之ヲ崇メテ御肉ト呼ンダモノデ肉ハ蓋シ其レガ肥厚シテ肉質ノ物デアルカラ肉蓯蓉ト云フ植物デアルト認メラレテ居ッタノデ其頭字ヲ取テ之ヲ

肉ト言ッタモノデアロウト思フ

おにくハ又きむらたけトモおかさたけトモかさたけトモ稱ヘル始メテ之ヲきむらたけト聞イタ人ハ其名ガ何ノ意ダカ容易ニ分リ悪クカロウガ然シ之ヲきんまらたけト稱ヘバ稍其意味ヲ摸索スルコトガ出來ル然シ何故ニ斯ノ様ナ名ヲ呼ンダモノカ其由來ヲ聽テ見ナイ内ハ其譯ガ分ラヌ元來きんまらたけトハ即チ金麻羅茸ノ意デ此物ガ日光ノ奥ノ金精峠ニ産スルカラ當時ノ誰カヾ此様ナ戯ケタ名ヲ工夫シタコトヽ見エルソシテきんまらたけト剝出シデハ餘リ可笑シイカラ之ヲきむらたけト捩ラシテ其意ヲ髣髴サセ然カモ表面眞面目ラシイ名トシタノデハナイカト想ハルヽ、ガ或ハソウデハナクテ元トハ剝出シノマヽノきんまらたけデアッタモノガ年ヲ經ルマヽニ自然ニ之レガきまらたけト變ジ又ソレガ更ニ轉ジテきむらたけト再變シタモノカモ知レナイ金精峠ノ金精ハ即チ金麻羅ノ意デ同山ニハ其半腹ノ處ニ一ノ祠ガアッテ銅ニ鍍金シタ穩カナラヌ男ノ一物ガ祭ラレテアル之ヲ金精權現ト稱スル是ガアルノデ遂ニ其山ノ名モ金精峠ノ字ヲ用ウル様ニナッタ此金精峠ニおにくガ生ズルカラ前述ノ如ク之ヲきんまらたけ即チきむらたけト唱ヘ出シタモノデアルたけハ茸デ此植物ガ無葉多肉ノ太キ寄生物デ其形チガ自然トきのこ然トシテ居ルトコロカラ之ヲ其レニ擬シテたけト呼ンダモノデアル植田孟縉ト云フ人ノ編輯シタ日光山志（天保

(1) おにく(イ)ハみやまはんのきノ根　(2) みやまはんのき（共ニ縮圖）

八年刻成）ニハ金精峠(コンセイタウゲ)ノ處ニ下ノ様ナコトガ書イテアル即チ『扨此峠の古名は樾峠(こむら)なり和名抄に木枝相交下陰を樾(こむら)といふと云々されば五音相通じけるよりしていつしかきむら峠と轉訛せるなり茲の山中に肉蓯蓉多く生ず其くさむらの名をもきむら茸(たけ)と呼り此蕈(くさびら)は藥品にして能(よく)腎經を補助するものなればとて何ものか茲に陽物を祀りて金精と稱し古名の樾(こむら)を轉じてきむらと唱るより今は又轉訛してきむらのむの音をまに替て鄙劣の唱へを言ること笑ふべきにあらずやされども五音に通用することより起れり』トアル之レニ據レバ金精峠ハ元ト樾峠(コムラ)ト云ッタモノト見エル、ソシテ此様ニきむらたけハ此樾(コムラ)カラ出タきむら峠ニ生ズルカラきむらたけト呼ブト言ヘバ何モ別ニ可笑シイコトハナイ然シ今ハ何レガ本當ダカ私ニハ判ラヌ又おかさたけ并ニかたけけノ意味ハ一向私ニハ解シ得ナイガ或ハ鱗片ガ鱗次シタ其幼本ガ松毬(マツサカ)ニ似テ居ルカラ斯ク云フデハナカロウカトモ思フ

昔ノ多クノ本草家ハ此おにくヲ肉蓯蓉ト云フ植物ニ充テタ其レ故今日デモ尚ホ之ヲ肉蓯蓉ト唱ヘル人ガアル又其レカラ轉訛シテにくじゅ、にくじゅゆ、にくじわうト呼ブ人ガアルガ然シ之ヲ其ノ様ニ唱フルハ實ハ間違ッテ居ル元來肉蓯蓉ハ本草綱目ナドニ出テ居ル一寄生植物ノ名稱デ亞細亞大陸ノ中部ニ産シテ固ヨリ我日本ニハ之レヲ見ナイ、おにくト同ジ様ニはまうつぼ科ニハ屬スルガ然シ全ク別ノ屬ニ屬シ Cistanche salsa HEMSL.（異名 Phelipaea salsa C. A. MEY.）ト云フ學名ヲ有スル、此肉蓯蓉ノ事ハ追ッテ詳シク記シテ見ヨウト思ッテ居ル

○日本畫家ノもみぢ葉ト實際ノもみぢ葉

牧野富太郎

もみぢ即チかへで（此レニ單ニ楓ノ字ヲ充ツルハ實ハ非デアル何トナレバ楓ハかへでノ類デハナイカラ）ハ其葉ガ掌状ニ分裂シテ居リ從テ其葉脈ガ亦掌状ニ射出シテ居ル其天然ノ葉デハ其掌状脈ハ左圖ノ一（原圖）ニ見ルヨウニ其各脈ガ葉ノ基部ノ一點カラ發出シテ居ル即チ其葉ガ葉柄ニ著イテ居ル一點カラ出テ居ル是レハ掌状ニ分